

— 部門別の動き —

部門別の動き

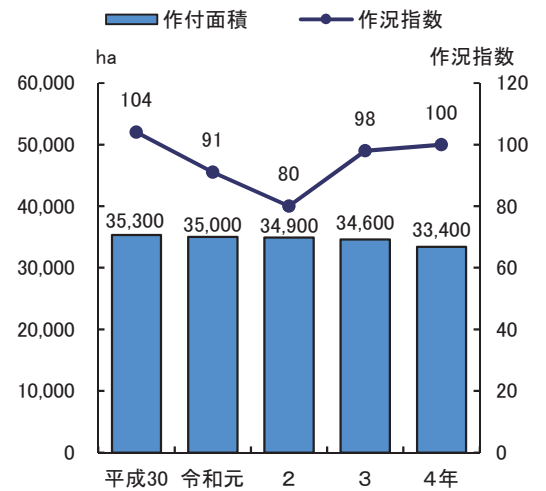
1 農業

(1) 水田農業

○米

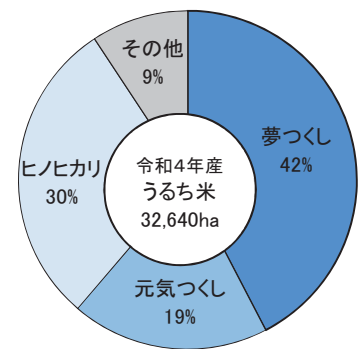
(作況指数は100の「平年並み」)

- ・作付面積は、前年に比べ1,200ha減の33,400ha。生産量は300t増の164,000t。10a当たりの収量は491kg、作況指数は100の「平年並み」。
- ・これは、7月中旬の日照不足により全もみ数が平年に比べやや少なかったものの、登熟がやや良かったことが主な要因。
- ・うるち米全体に占める県育成品種の割合は、前年並で「夢つくし」が42%、「元気つくし」が19%。



水稻の作付面積・作況指数

資料：農林水産省「作物統計」



うるち米の品種別作付割合

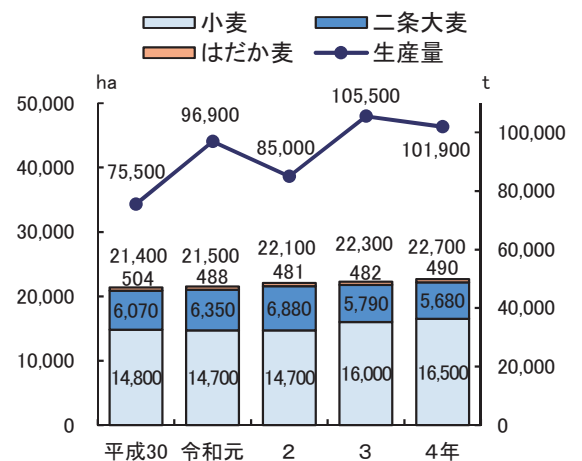
資料：水田農業振興課調べ

○麦

(麦は5年連続で豊作)

- ・作付面積は、前年に比べ400ha増の22,700ha。生産量は平年※に比べ30%増の100,900tとなり、5年連続で豊作。
- ・これは、適期播種や排水対策の徹底により穂数を多く確保できたことが主な要因。
- ・小麦の生産量は、平年に比べ19,940t増の75,400t、二条大麦は3,600t増の23,800t。
- ・ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、前年並みの1,880ha。生産量は平年に比べ28%増の8,065t。

※生産量の平年値：平成27年産～令和3年産平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。



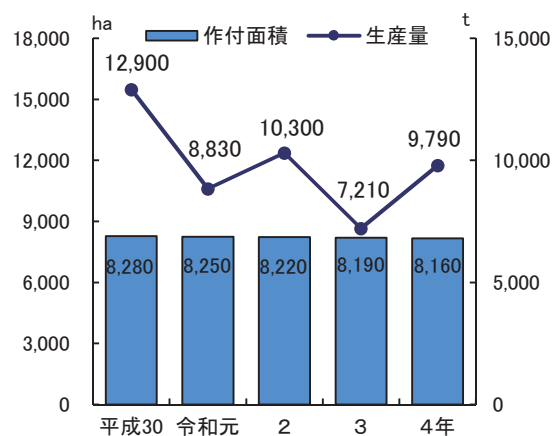
麦類の作付面積・生産量

資料：農林水産省「作物統計」

○大豆

(大豆の作付面積は前年並み、生産量は2,580t増)

- ・ 作付面積は、ほぼ前年並みの8,160ha、うち令和4年から本格栽培を開始した大豆新品種「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」の作付面積は789ha。
- ・ 生産量は、前年に比べ2,580t増の9,790t。
- ・ 10a当たりの収量は平年比90%の120kg。
- ・ これは、9月の台風による倒伏やフェーン発生による登熟不良によって小粒傾向となったことが主な要因。



大豆の作付面積・生産量

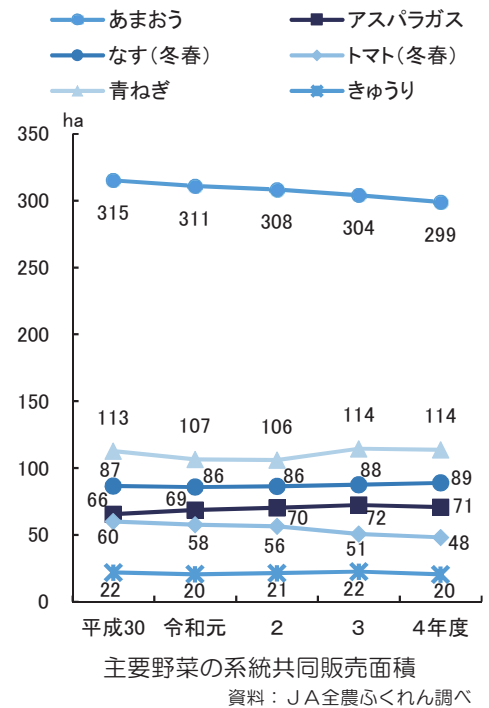
資料：農林水産省「作物統計」

(2) 園芸・特産

○野菜

(「あまおう」の販売単価は19年連続で日本一)

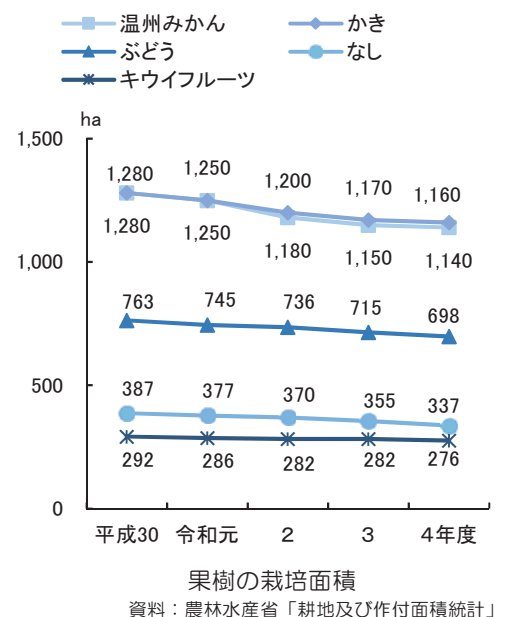
- いちご「あまおう」の作付面積は、前年産に比べ5ha減の299ha。販売量は、収穫期間を通して前進化傾向で推移したため、前年産に比べ3%減の9,859t。販売単価は、1,590円/kgとなり、19年連続日本一。販売金額は、過去5番目に高い156億円。
- なすは、授粉作業の省力化と収量向上を目的とした省力性品種の導入率が、前年産から2ポイント増加の97%。
- アスパラガスの作付面積は、前年産に比べ1.5ha減の70.8ha。1戸当たりの作付面積は19.5aと、10年前の平成24年産と比べて1.2倍に拡大。
- 露地野菜の令和3年産作付面積は、レタスやブロッコリーの作付が減少したことにより、前年産から153ha減の3,240ha。



○果樹

(「秋王」の生産量が、前年から大きく増加)

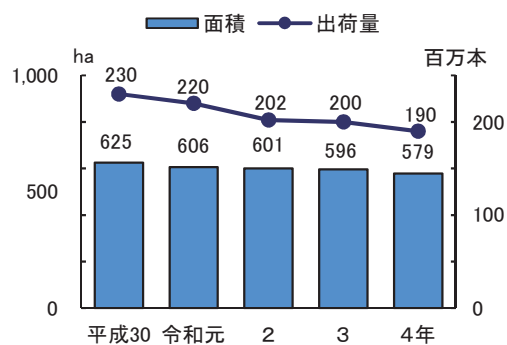
- 温州みかんの栽培面積は、前年に比べ10ha減の1,140ha。県内で育成された「早味かん」や「北原早生」の栽培面積は、前年比1ha増の177ha。生産量は、夏期の乾燥による果実の肥大不良や前年秋の乾燥による花数の減少が生じたことから、前年比12%減の2,771t。
- かきの栽培面積は、前年に比べ10ha減の1,160ha。県育成品種「秋王」の栽培面積は、前年並みの39ha。生産量は、結実向上技術の普及や多日照で生理落果が少なかったため、前年比64%増の181t。
- キウイフルーツの栽培面積は、前年に比べ6ha減の276ha。県育成品種「甘うい」の栽培面積は、前年並みの20ha。生産量は、夏期に雨が少なく果実の肥大が悪かったことから前年比6%減の291t。



○花き・花木

(花きの作付面積、出荷量は前年並み)

- ・花きの作付面積は、579haで前年よりやや減。作付面積全体の3割を占めるキクは前年に比べ9%減の195ha。
- ・花きの出荷量は、前年に比べ5%減の190百万本。



花き出荷量及び面積

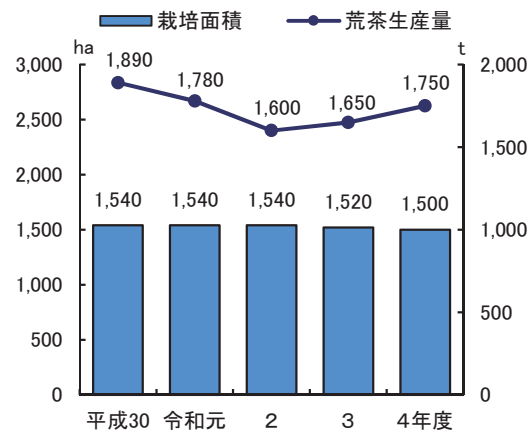
資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

○特産（茶）

(一番茶（煎茶・玉露）価格は全国一)

- ・茶の栽培面積は前年並みの1,500ha。八女伝統本玉露の栽培面積は、前年に比べ1.5ha減の12.1ha。
- ・「さえみどり」や「おくみどり」といった優良品種への改植を進めた結果、優良品種の栽培面積は、前年に比べ5ha増の199ha。
- ・荒茶の生産量は、前年に比べ6%増の1,750t。
- ・一番茶の荒茶価格は、普通煎茶が前年に比べ4%上昇し3,295円/kg、玉露が前年に比べ3%上昇し5,833円/kgで、いずれも全国一。
- ・八女茶は、令和4年度の全国茶品評会において、八女市が「玉露の部」で22年連続、「普通煎茶4kgの部」で2年連続となる産地賞[※]を受賞。

※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞するもので、同一市町村から3点以上出品があり、審査成績の上位3点の合計審査得点をもって決定。



茶の栽培面積と荒茶生産量

資料：栽培面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」
荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

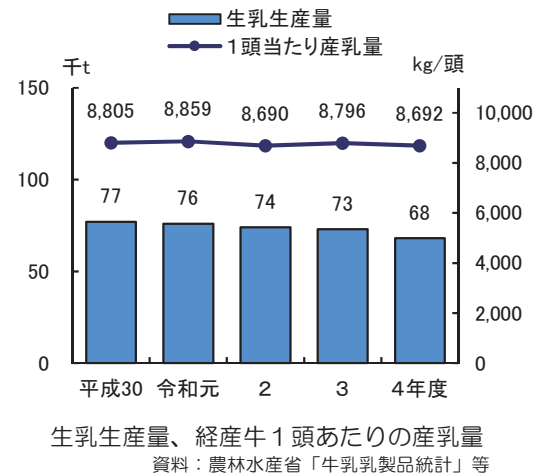
(3) 畜産

○乳用牛

(生乳生産量は前年比 5, 200t 減)

- ・乳用牛飼養頭数は、廃業による飼養戸数の減により、前年に比べ100頭減の11,700頭。1戸当たりの飼養頭数は、前年に比べ2頭増の63.9頭。
- ・生乳生産量は、前年に比べ5,200t減の68,142t。
- ・令和3年度の高能力牛*の飼養頭数は、優良受精卵移植の改良や高能力牛の導入により、前年度に比べ86頭増の612頭。搾乳牛全体に占める割合は13.3%。
- ・経産牛1頭当たりの産乳量は、前年に比べ104kg減の8,692kg。

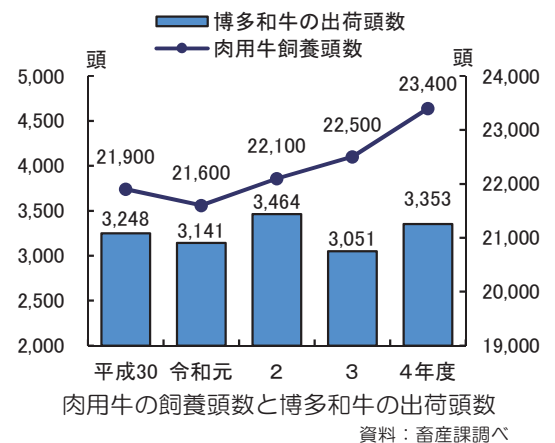
*高能力牛：年間産乳量が12,000kg以上の乳牛のこと。



○肉用牛

(「博多和牛」出荷頭数は302頭増の3,353頭)

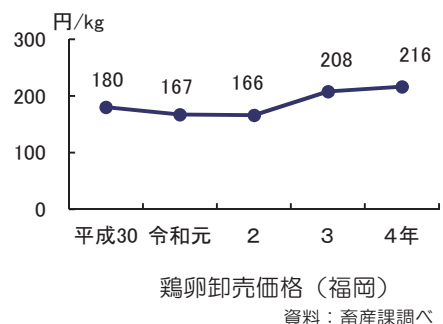
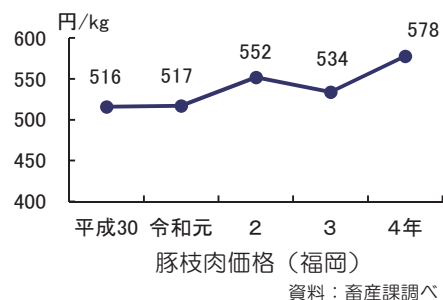
- ・肉用牛飼養戸数は、前年に比べ22戸減の169戸。飼養頭数は、規模拡大の進展により900頭増の23,400頭。1戸当たりの平均飼養頭数は37頭増の138.5頭。
- ・「博多和牛」の出荷頭数は、前年に比べ302頭増の3,353頭。
- ・年平均枝肉価格は、前年に比べ、和牛及び交雑種は5%低下、乳用種は2%上昇。



○養鶏・養豚

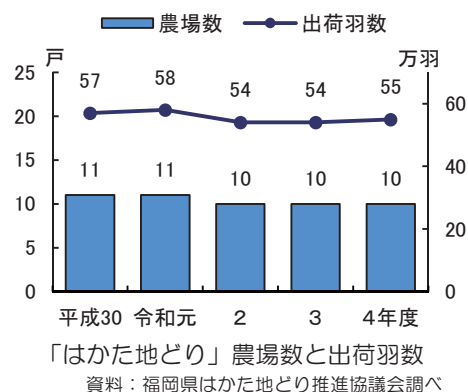
(豚の飼養頭数は82,000頭、鶏卵価格は前年比4%上昇)

- ・豚の飼養頭数は、1戸当たりの平均飼養頭数の増加により前年に比べ1,700頭増の82,000頭。豚肉価格は、前年に比べ8%上昇の578円/kg。
- ・鶏卵生産量は、飼養戸数の減少により、前年に比べ2,942t減の43,249t。鶏卵価格は、10月からの鳥インフルエンザ発生による鶏の殺処分増加の影響で全国的に流通量が減少したため、前年に比べ4%上昇の216円/kg。



(「はかた地どり」の出荷羽数は6年連続で九州一)

- ・肉用鶏飼養羽数は、1戸当たりの平均飼養羽数の増加により、前年に比べ14万羽増の114万羽。
- ・「はかた地どり」の令和4年度の出荷羽数は、前年度並みの55万羽で、地どりの出荷羽数では、6年連続で九州1位を達成。
- ・「はかた一番どり」の令和4年度の出荷羽数は、暑熱の影響により種鶏の受胎率が低下し、ヒナの供給が滞ったため、前年度に比べ3万羽減の49万羽。



○家畜衛生

(関係機関と連携し、家畜防疫体制を強化)

- ・令和4年10月に久留米市で、市や関係機関と連携し、豚熱の発生を想定した地域の防疫演習を開催。防疫作業の一連の工程について確認。
- ・演習には、発生した際に防疫作業に従事する近隣の県機関の職員も参加し、家畜保健衛生所の獣医師の指示の下、作業を実施。
- ・同時に、演習の様子を遠隔地の県機関にもWebで配信し、効率的な演習を実施。



豚熱県域防疫演習

(4) 福岡県農業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全 国 シェア(%)	全 国 ランク	備 考
農 家 数		戸	41,351	1,747,079 (1,709,485)	2.4	19	2020年農林業センサス 注：() は都府県
	うち販売農家	戸	27,187	1,027,892	2.6	17	
	自給的農家	戸	14,164	719,187	2.0	20	
農 業 経 営 体 数		経営体	28,375	1,075,705 (1,040,792)	2.6	17	2020年農林業センサス 注：() は都府県
	うち個人経営	経営体	27,239	1,037,342	2.6	17	
	団体経営	経営体	1,136	38,363	3.0	9	
基幹的農業従事者数		人	38,077	1,363,038	2.8	14	2020年農林業センサス (個人経営体)
	うち女性の割合	%	40.3	39.7	—	—	
	65歳以上の割合	%	66.2	69.6	—	—	
耕 地 面 積		ha	78,900	4,325,000 (3,184,000)	1.8	15	令和4年耕地面積調査 注：() は都府県
	うち水田面積	ha	63,800	2,352,000 (2,130,400)	2.7	14	
	畑面積	ha	15,100	1,973,000	0.8	26	
水 田 率		%	80.9	54.4 (66.9)	—	12	
1戸当たり平均耕地面積		a	190.8	247.6 (186.3)	—	21	注：1戸当たり平均耕地面積は耕地面積/農家戸数で算出
農 業 産 出 額		億円	1,968	88,600	2.2	16	令和3年生産農業所得 統計 注：全国は都道府県の 合計値
	うち 米	億円	327	13,751	2.4	15	
	麦 類	億円	34	729	4.7	3	
	豆 類	億円	11	714	1.5	12	
	野 菜	億円	668	21,467	3.1	12	
	果 実	億円	257	9,159	2.8	11	
	花 き	億円	165	3,306	5.0	4	
	そ の 他 作 物	億円	61	693	8.8	1	
	工 芸 農 作 物	億円	24	1,727	1.4	13	
畜 産	億円	397	34,062	1.2	24		
乳用牛飼養頭数		頭	11,700	1,371,000	0.9	20	令和4年畜産統計調査 注：採卵鶏は成鶏めす 羽数
肉用牛飼養頭数		頭	23,400	2,614,000	0.9	25	
豚飼養頭数		頭	82,000	8,949,000	0.9	26	
採卵鶏飼養羽数		千羽	2,837	182,661	1.6	20	
ブロイラー飼養羽数		千羽	1,444	139,230	1.0	19	

(5) 福岡県農業の全国的地位

項目	区分	単位	全国順位 全国計	主産県					全国シェア		全国面積 県面積 (単位:ha)
				1	2	3	4	5	面積	収穫量	
麦類	4 麦 計	t	3 1,227,000	北海道 620,900	佐賀 104,000	福岡 100,900	栃木 45,000	滋賀 30,600	8%	8%	290,600 22,700
	(うち小麦)	t	2 993,500	北海道 614,200	福岡 75,400	佐賀 56,600	愛知 30,000	三重 25,000	7%	8%	227,300 16,500
	(うち二条大麦)	t	3 151,200	佐賀 46,200	栃木 32,000	福岡 23,800	熊本 9,410	岡山 7,940	15%	16%	38,100 5,680
	(うちはだか麦)	t	4 17,000	愛媛 4,340	大分 2,850	香川 2,310	福岡 1,670	佐賀 1,170	8%	10%	5,870 490
野菜	い ち ご	t	2 164,800	栃木 24,400	福岡 16,600	熊本 12,100	愛知 11,000	長崎 10,700	9%	10%	4,930 428
	み ず な	t	2 41,300	茨城 21,200	福岡 3,180	京都 2,190	兵庫 1,560	埼玉 1,540	9%	8%	2,420 215
	冬 春 な す	t	3 114,500	高知 37,900	熊本 25,000	福岡 14,100	愛知 7,320	群馬 7,120	10%	12%	1,040 102
	セ ル リ ー	t	3 30,000	長野 12,600	静岡 5,760	福岡 3,460	愛知 2,650	香川 924	9%	12%	541 46
	こ ま つ な	t	3 119,300	茨城 24,800	埼玉 14,300	福岡 10,400	東京 8,360	神奈川 6,710	8%	9%	7,420 614
	し ゅ ん ぎ く	t	4 27,200	大阪 3,390	千葉 2,710	茨城 2,420	福岡 2,390	群馬 2,170	10%	9%	1,800 172
	ア ス パ ラ ガ ス	t	4 25,200	北海道 2,930	佐賀 2,520	熊本 2,360	福岡 1,900	長崎 1,840	2%	8%	4,500 88
	冬 春 ト マ ト	t	4 394,900	熊本 110,900	愛知 45,700	栃木 26,300	福岡 18,000	千葉 17,100	3%	5%	3,840 116
果樹	キウイフルーツ	t	1 19,700	福岡 3,880	愛媛 3,390	和歌山 2,420	神奈川 1,210	群馬 959	14%	20%	1,880 262
	か き	t	3 187,900	和歌山 39,700	奈良 28,300	福岡 15,800	岐阜 12,600	長野 9,870	6%	8%	18,100 1,140
	い ち じ く	t	5 10,750	和歌山 2038	愛知 1813	大阪 1342	兵庫 1301	福岡 901	9%	8%	871 75
	ぶ ど う	t	5 165,100	山梨 40,600	長野 28,800	岡山 15,100	山形 14,600	福岡 6,910	4%	4%	16,500 696
花き	ガーベラ(切花)	千本	2 122,600	静岡 52,300	福岡 16,500	和歌山 10,800	愛知 9,130	長崎 6,460	14%	13%	78 11
	き く	千本	3 1,298,000	愛知 446,700	沖縄 234,200	福岡 78,300	鹿児島 66,000	長崎 49,700	5%	6%	4,258 215
	トルコギキョウ	千本	3 85,400	長野 12,900	熊本 10,600	福岡 7,170	静岡 4,120	山形 3,870	9%	8%	402 36
	洋ラン類(鉢物)	千鉢	3 11,900	愛知 2,970	熊本 1,210	福岡 959	千葉 737	山梨 724	8%	8%	170 14
	ば ら	千本	4 194,400	愛知 32,200	静岡 19,200	山形 12,900	福岡 12,800	愛媛 10,900	6%	7%	284 16
その他の作物 (庭園樹苗木等)	億円	1 135	福岡 39	三重 38	愛知 16	鹿児島 9	熊本 6	—	29%	— —	
特産	茶	億円	5 495	鹿児島 152	静岡 147	三重 43	京都 36	福岡 22	4%	3%	36,900 1,440
	い 草	千枚	2 1,950	熊本 1,940	福岡 14	注：全国計は主産県の合計			1%	1%	451 3

注：麦類：4年産作付面積(子実用)・収穫量、野菜：3年産作付面積・収穫量

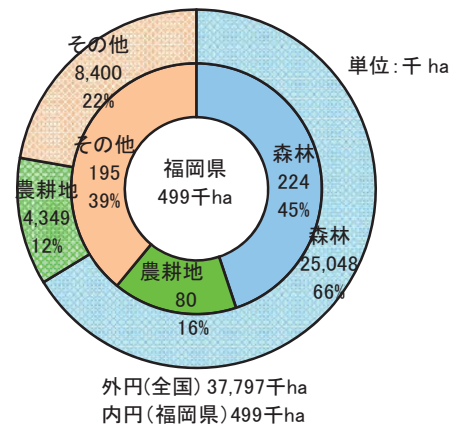
果樹：3年産結果樹面積(いちじくは2年産栽培面積)・収穫量、花き：3年産作付(収穫)面積・出荷量、

庭園樹苗木等：3年産出額、茶：3年産出額、4年産作付面積・荒茶生産量(主産県)、い草：3年産量表生産量・作付面積・収穫量

2 林業

○ 森林率は45%、全国より21ポイント低い

- ・ 本県の森林面積は224千haで、県土面積に対する森林面積の割合である森林率は45%。
- ・ これは全国の森林率66%より21ポイント低い。

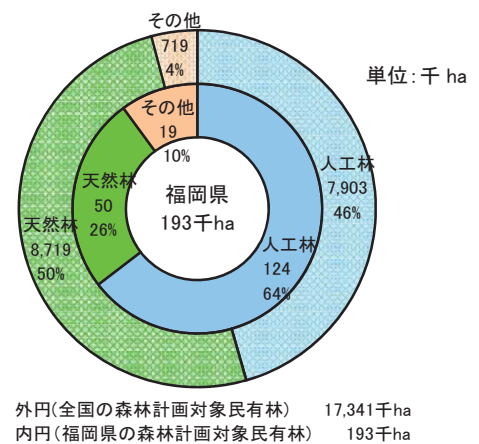


国土・県土に占める森林の面積
資料：福岡県：地域森林計画書（令和5年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（平成28年度）」等

○ 人工林率は64%、全国2位

- ・ 本県の民有林における人工林面積は124千haで、民有林に占める人工林の面積割合を示す人工林率は64%。これは全国の46%より18ポイント高く、全国2位。
- ・ 人工林と天然林を合わせた材積[※]は61,015千m³。

※材積：木材の体積で、単位は立方メートル。



人工林・天然林別の森林面積
資料：福岡県：地域森林計画書（令和5年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（平成28年度）」

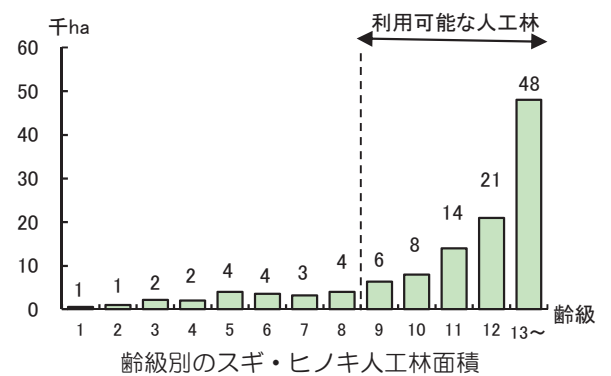
人工林・天然林別の材積 単位：千m³

	人工林	天然林	計
全国	2,792,601	1,217,101	4,009,892
福岡県	57,136	3,879	61,015

資料：福岡県：地域森林計画書（令和5年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（平成28年度）」

○ スギ・ヒノキの資源が充実

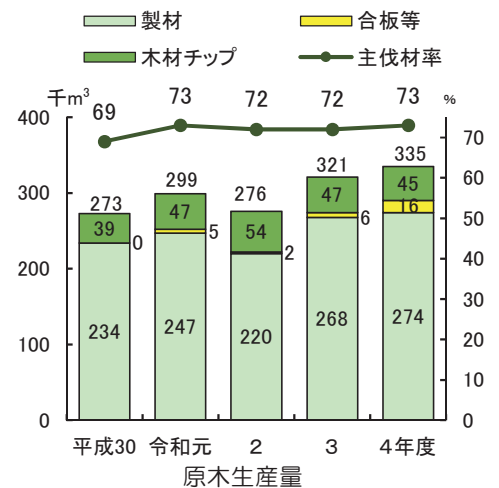
- ・ 本県の人工林124千haのうち、スギ・ヒノキ林は118千ha。
- ・ このうち本格的に利用可能な41年生以上の面積は97千ha。



(1) 林業

(原木生産量は4%増の335千m³)

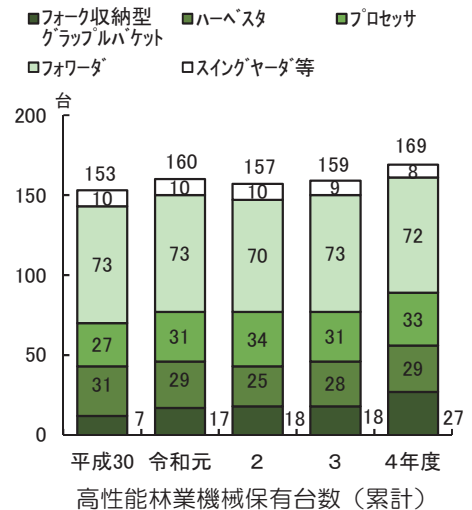
- ・令和4年の原木生産量は、主伐経費の助成や高性能林業機械の導入支援に加え、円安などの影響を受け、国産材の需要が高まったことから、前年に比べ4%増の335千m³。
- ・原木生産に占める主伐材の割合は前年並みの73%。
- ・原木の用途別では、製材用が274千m³、合板等用が16千m³、木材チップ用が45千m³。



資料：林業振興課調べ

(高性能林業機械の保有台数は169台)

- ・令和4年度の高性能林業機械の保有台数は、前年度から10台増の169台。
- ・これは、原木生産を効率的に行うため、立木の伐採・集積や作業道の開設に使用できるフォーク収納型グラップルバケットなどの導入が進んだことによるもの。



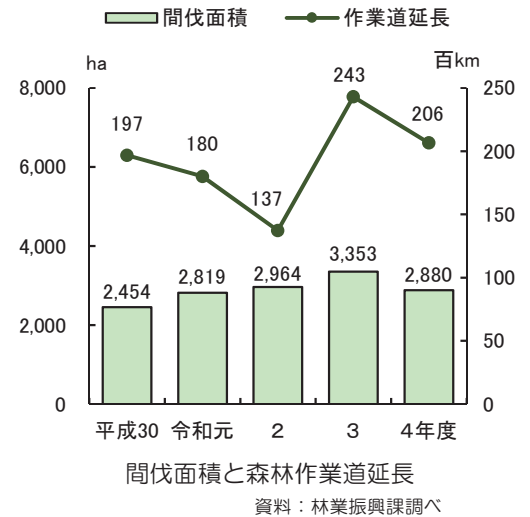
資料：林業振興課調べ



フォーク収納型グラップルバケット

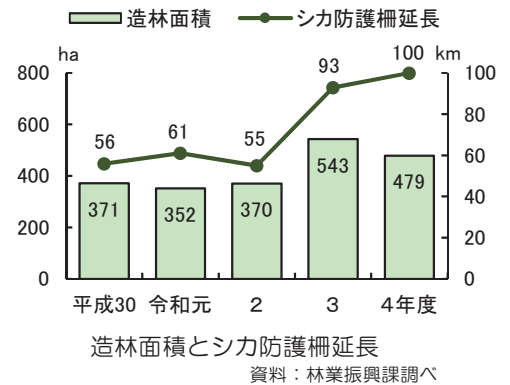
(健全な森林づくりを推進)

- ・令和4年度の間伐面積は、前年度に比べ473ha減の2,880ha、間伐等と一体的に行う森林作業道の整備延長は、前年度に比べ3,700km減の20,600km。
- ・これは、補正予算を活用し、4年度計画を3年度に前倒しで実施したことによるもの

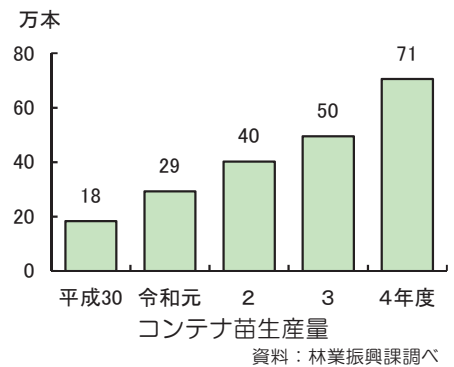


(コンテナ苗の活用により再造林を推進)

- ・令和4年度の造林面積は、前年度に比べ64ha減の479ha。造林面積は、補正予算を活用し、4年度計画を3年度に前倒しで実施したことによるもの。
- ・シカによる苗木の食害が多い地域では、苗木を保護するためのシカ防護柵を併せて設置し、4年度の設置延長は、7km増の100km。
- ・年間を通して植栽可能なコンテナ苗^{*}の生産量は、前年度に比べ21万本多い71万本まで増加。



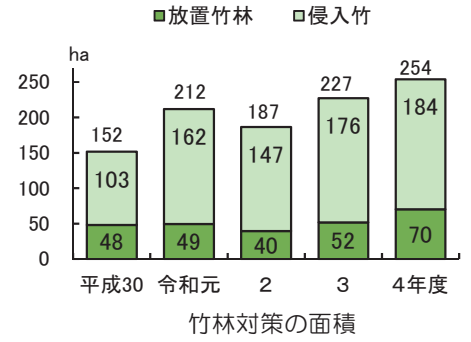
^{*}コンテナ苗：根鉢があるため、これまでの裸苗よりも活着率が高いことから、年間を通して植栽することが可能な苗。



(竹林対策の面積は254haに拡大)

- ・令和4年度の放置された竹林の伐採とスギや広葉樹への植替えの面積は、前年度に比べ18ha増の70ha、人工林への侵入竹の伐採面積は、前年度に比べ8ha増の184ha。
- ・これは、竹林が多い市町と構成する連絡会議において、竹林整備の情報を共有し、森林環境譲与税[※]を活用して市町村が実施する竹林対策の取組が進んだことによるもの。

※森林環境譲与税：国の温室効果ガス排出目標の達成や災害防止を図る目的で、地方公共団体が行う森林整備や関連事業の推進に必要な地方財源として、令和元年度に国が創設。

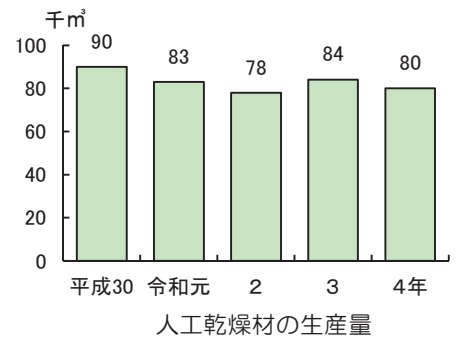


資料：林業振興課調べ

(2) 木材産業

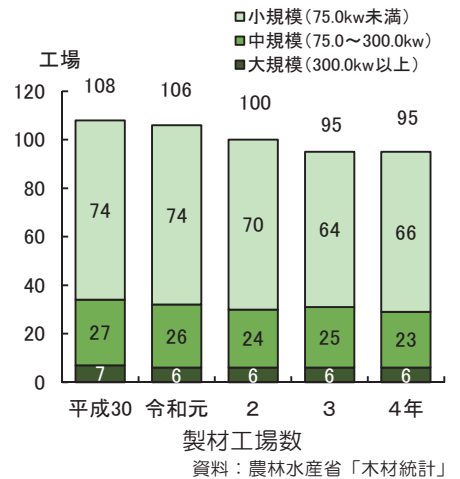
(人工乾燥材生産量は前年並み)

- ・住宅メーカーや工務店が求める曲がりや割れの少ない人工乾燥材の令和4年の生産量は、前年並みの8万m³。
- ・県内の製材工場で生産している製材品に占める人工乾燥材の割合は、前年並みの35%。



(製材工場数は95工場)

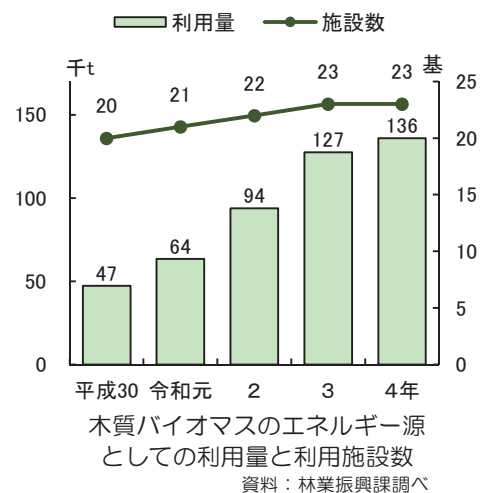
- ・令和4年の製材工場数は、前年と同数の95工場。
- ・製材品の製造能力別にみると、小規模工場が2工場増加、中規模工場が2工場減少し、大規模工場は横ばい。



(木質バイオマスのエネルギー源としての利用量が増加傾向)

- ・木質バイオマス^{*}をエネルギー源として利用する施設は、主に温浴施設や発電施設、製材工場の人工乾燥施設で、施設数は前年と同じく23施設。
- ・令和4年の利用量は、前年に比べ7%増の13万6千t。
- ・これは、3年の途中から稼働を開始した荻田町の木質バイオマス発電所が通年稼働したことによるもの。

^{*}木質バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源で、木本類（枝葉を含む）、竹、製材等残材、木質チップ、薪、木質ペレット、建築資材廃棄物。

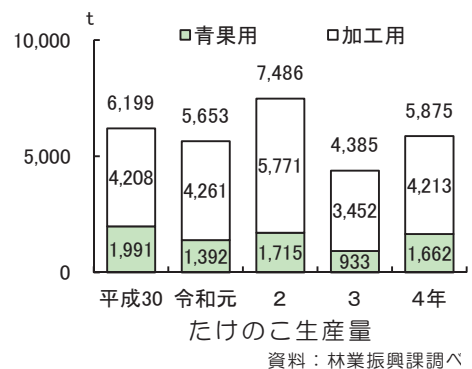


(3) 特用林産物等

(たけのこ生産量は34%増の5,875t)

- ・令和4年のたけのこの生産量は、前年に比べ34%増の5,875t。
- ・これは、主産地の八女地域が表年[※]であったこととあわせて、3月下旬以降のたけのこ発生期に、気温と降水量に恵まれたため、生産量が増加したもの。

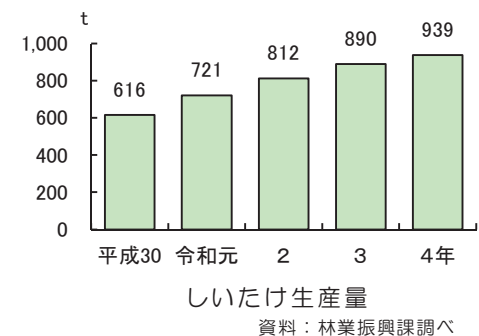
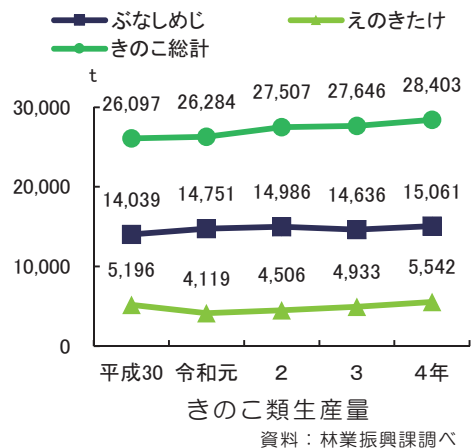
※表年と裏年：竹は、通常2年に一度葉変わりするため、豊作年（表年）と不作年（裏年）が交互に現れる。



(きのこ類全体の生産量は3%増の28,403t)

- ・令和4年のぶなしめじの生産量は、前年に比べ3%増の15,061t。えのきたけの生産量は、前年に比べ12%増の5,542t。きのこ類[※]全体では前年に比べ3%増の28,403t。
- ・しいたけの生産量は、前年に比べ6%増の939t。
- ・これは、国がしいたけの植菌地を原産地として表示するようルールを見直したことにより、国産しいたけの需要が高まったことが要因。

※きのこ類：生しいたけ、乾しいたけ、なめこ、えのきたけ、ひらたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、きくらげ類、ぬめりすぎたけ、ゆきれいたけ、王リングを含む。



(4) 福岡県林業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全国シェア (%)	全国ランク	備考
民有林の状況							
面積		千ha	193	17,341	—	—	県 : 令和5年4月1日現在(地域森林計画書) 全国 : 平成29年3月末現在(森林資源現況調査 : 林野庁) 県 : 令和4年度実績(林業振興課調べ) 全国 : 令和2年度実績(2022年森林・林業統計要覧 : 林野庁) 県 : 令和4年度実績(農山漁村振興課調べ) 全国 : 令和2年度実績(2022年森林・林業統計要覧 : 林野庁) 県 : 令和5年3月末現在(農村森林整備課調べ) 全国 : 令和3年3月末現在(2022年森林・林業統計要覧 : 林野庁)
材積		千m ³	61,015	4,009,892	—	—	
造林面積		ha	479	19,560	—	—	
間伐面積		ha	2,880	261,000	—	—	
主伐面積		ha	846	79,365	—	—	
林道延長(自動車道)		km	1,597	93,493	—	—	
林道密度		m/ha	8.3	5.4	—	—	
林業・木材産業の状況							
森林組合数		組合	9	613	—	—	県 : 令和4年3月末現在(団体指導課調べ) 全国 : 令和3年3月末現在(令和2年度森林組合統計 : 林野庁)
森林組合員数		人	28,781	1,486,979	—	—	県 : 令和4年3月末現在(団体指導課調べ) 全国 : 令和3年3月末現在(令和2年度森林組合統計 : 林野庁)
製材工場数		工場	95	3,804	—	—	令和4年6月末現在 (令和4年木材統計 : 農林水産省)
主な林産物生産量							
素材		千m ³	335	22,082	1.5	29	令和4年次実績(令和4年木材統計 : 農林水産省、林業振興課調べ) 県 : 令和4年次実績(農山漁村振興課調べ) 全国 : 令和3年次実績(令和3年特用林産基礎資料 : 林野庁) ※しいたけは、生に換算した重量
しいたけ		t	939	86,573	1.0	27	
ぶなしめじ		t	15,061	119,545	12.2	3	
えのきたけ		t	5,542	129,587	3.8	4	
たけのこ		t	5,875	19,917	22.0	1	
木ろう		t	10	22	48.6	1	
林業産出額		千万円	1,362	42,864			
木材生産		千万円	239	19,437	1	28	令和3年次実績 (令和3年林業産出額 : 農林水産省)
薪炭生産		千万円	3	390	0.8	15	
栽培きのこ類		千万円	1,109	20,916	5.3	3	
林野副産物採取		千万円	10	468	2.1	10	
木材価格							
スギ(中丸太)		円/m ³	14,500	17,600	—	—	県 : 令和4年次県森連浮羽事業所実績値 (径18~22cm、4m) 全国 : 令和4年次実績 (農林水産統計 : 農林水産省)
ヒノキ(中丸太)		円/m ³	23,800	25,100	—	—	
緑化木							
生産本数		千本	3,605	56,444	7.6	3	県 : 令和4年度実績(林業振興課調べ)
生産額		億円	13	—	—	—	全国 : 平成30年9月現在(緑化樹木の生産事例調査 : 林野庁)

注1 : 全国ランク・シェアは、全国の数値の統計年次・年度におけるものを示している。

注2 : 「—」印は、シェア算出又はランク付けに適さないもの。

注3 : 「年度」は4月から翌年3月まで、「年次」は1月から12月までを表す。

(5) 福岡県林業の全国的地位

項目			区分	単位	全国シェア (%) 全国計	主産県				
						1	2	3	4	5
特用林産物	食用	きのこ類	えのきたけ	t	3.8 129,587	長野 79,018	新潟 19,386	宮崎 -	福岡 4,933	長崎 -
			ぶなしめじ	t	12.2 119,545	長野 51,122	新潟 22,045	福岡 14,636	香川 -	静岡 3,181
			まいたけ	t	6.9 54,521	新潟 36,680	静岡 5,102	福岡 3,768	長野 2,729	北海道 2,409
			エリンギ	t	5.6 38,344	長野 16,434	新潟 12,007	広島 -	福岡 2,149	香川 1,455
		その他	たけのこ	t	22.0 19,917	福岡 4,386	鹿児島 3,999	京都 3,164	熊本 2,287	香川 986
	非食用	木ろう		t	48.6 22	福岡 11	愛媛 10	長崎 1	石川 0.2	和歌山 0.1
		竹炭		t	50.9 459	福岡 234	鳥取 97	熊本 26	徳島 -	鹿児島 9
	緑化木	生産本数			千本	7.6 56,444	愛知 17,446	愛媛 10,731	福岡 4,292	東京 4,241
生産面積			a	20.1 388,832	福岡 78,148	熊本 65,326	愛知 33,104	千葉 31,649	東京 31,196	

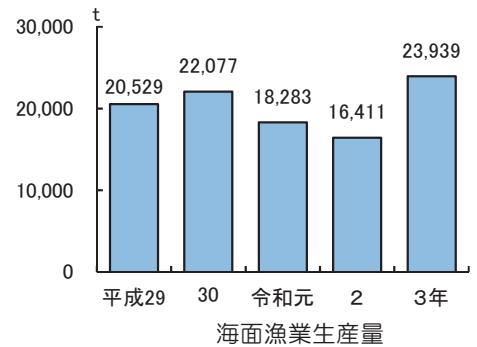
資料：（特用林産物）令和3年林野庁特用林産基礎資料・令和3年次実績
（緑化木）緑化樹木の生産事例調（林野庁）・平成30年9月現在

3 水産業

○海面漁業生産量

(海面漁業生産量(沿岸漁業)は前年比46%増の23,939t)

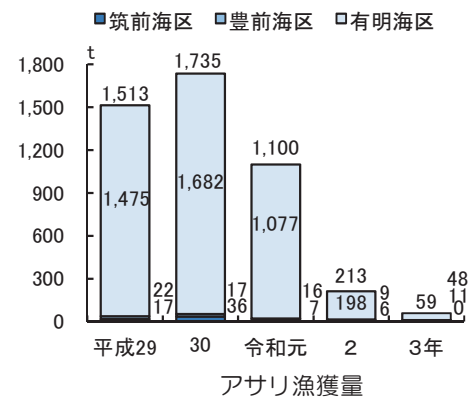
- ・令和3年の本県における海面漁業生産量(沿岸漁業)は、クラゲやアジ、サバ類の生産量の増加により、前年に比べ46%増の23,939t。
- ・主な魚種別の生産量は、来遊が多かったマアジが、前年に比べ217t増の817t、サバ類が、前年に比べ387t増の1,109t。マダイが前年に比べ554t減の1,519t。
- ・主な漁業種類別の生産量は、さし網9,442t、中小型まき網4,828t、船びき網2,533t、小型底びき網1,013t。



資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

(アサリ漁獲量は前年比72%減の59t)

- ・令和3年のアサリ漁獲量は、前年に比べ72%減の59t。これは、令和2年に、有明海において、豪雨により海水の低塩分状態が長期間継続したことに加え、その後の高水温により資源量が減少したことが主な要因。
- ・令和3年度以降、有明海では稚貝が多く発生。高密度に発生した漁場から稚貝を取り上げ、河川水の影響を受けにくい漁場へアサリを移植する取組を実施。その結果、資源は回復傾向。
- ・豊前海では、網袋を用いたアサリ稚貝の保護・育成の取組を、筑前海では、稚貝の移植放流を実施。



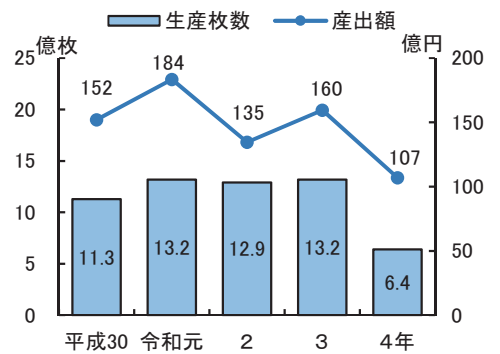
資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

注：四捨五入の関係で総数と内訳が一致しないことがある

○海面養殖生産量

(ノリ生産量は平年比50%減の6.4億枚)

- ・ノリの生産枚数は平年※に比べ50%減の6.4億枚。
- ・これは、晴天が続く高い水温の中、植物プランクトンが増殖したことで、栄養塩が減少し、ノリの色落ちや生長の遅れが発生したことが主な要因。
- ・県では、漁場の調査回数を増やし、海況情報を漁業者へリアルタイムで提供するとともに、早めの摘採や網を張る高さなど養殖管理をきめ細く指導。
- ・平均単価は、平年に比べ4.06円高の16.54円/枚で、生産額は平年に比べ33%減の105.3億円。



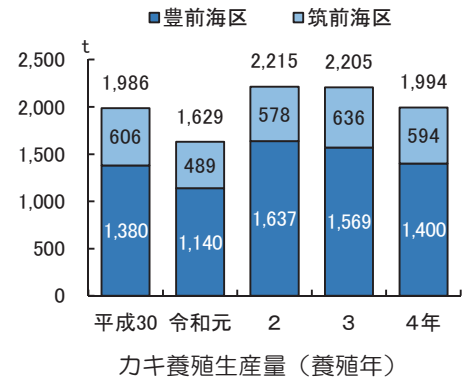
資料：水産振興課調べ

※生産枚数の平年値：平成29年～令和3年の5か年平均。

(カキ養殖生産量は平年並みの1,994t)

- ・カキの養殖生産量は平年*並みの1,994t。
- ・台風の影響があったものの、県の指導に基づく食害防止対策や養殖管理を徹底した結果、平年並みの生産を維持。

※生産量の平年値：平成29年～令和3年の5か年平均。

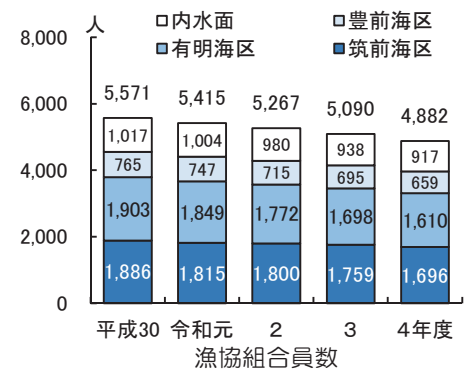


資料：水産振興課調べ

○漁業協同組合員数

(漁業協同組合員数は4,882人)

- ・漁業協同組合員数（内水面を含む）は、前年度に比べ4%減の4,882人。
- ・筑前海区が1,696人、有明海区が1,610人、豊前海区は659人、内水面は917人。



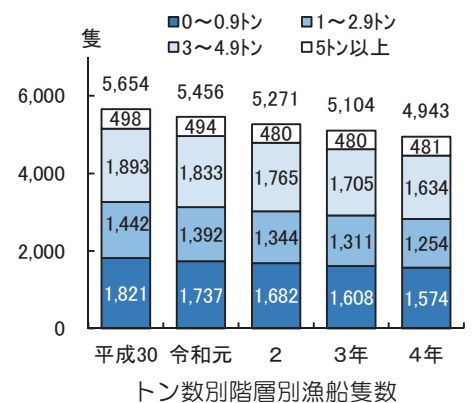
資料：漁業管理課調べ

注：令和4年度は速報値

○漁船隻数

(漁船隻数は4,943隻)

- ・漁船隻数は、前年に比べ3%減の4,943隻。
- ・小規模漁業を営む5トン未満の船が4,462隻で全体の90%を占める。



資料：漁業管理課調べ

(1) 筑前海区

(ブリ、サバ類は好調、カキ、真珠は平年並みを維持)

- ・令和4年度の漁船漁業の漁獲量は、ブリ、サバ類は平年を上回り好調、マアジは平年並み。
- ・カキ養殖は、成育が順調で、生産量は平年並み。真珠養殖は、前年度に引き続き平年並みの生産。
- ・クルマエビ129万尾、アワビ42万尾、アカウニ24万尾、トラフグ33万尾の種苗放流を実施。



市場に並ぶブリ



漁獲されたサバ類

トピック

○ 廃棄野菜でムラサキウニの身入りを向上

- ・ウニの生息密度が高い一部の漁場では、食害により海藻が減少。その結果、身入りが悪く漁獲対象とならないウニが増加。
- ・県では、糸島漁協と共同で、身入りの悪いウニを取り上げ、廃棄野菜を与えて養殖することにより、ウニの有効利用を図る取組を実施。
- ・港に近い海上の生け簀での約3ヶ月間の育成で、ウニの身入りは十分に回復し、カキ小屋等で殻付きウニとして販売を開始。
- ・「殻付きのウニは初めて食べた」、「磯の香りがあり、濃厚な味わい」と好評。



大根葉を食べるウニ



身入りが回復したウニ

(2) 有明海区

(アサリ資源は回復傾向、ノリは平年比5割の不漁)

- ・ノリ養殖は、漁期開始から例年になく高水温や晴天が続き、植物プランクトンが長期にわたり発生したことから、令和4年度の生産枚数は、平年に比べ50%減の6.4億枚、平均単価は16.54円/枚、生産額は105億円。
- ・ガザミ、クラゲは好漁。
- ・アサリは、大雨による被害を軽減するため、河口域で発生した稚貝を、河川水の影響を受けにくい漁場に移植する取組みにより、順調に成育。
- ・クルマエビ100万尾、ガザミ178万尾の種苗を放流。



アサリの移植

(3) 豊前海区

(サワラ、ナマコの漁獲が好調)

- ・令和4年度の漁船漁業の漁獲は、サワラやナマコが好調。ヨシエビ、シバエビは平年並み。
- ・カキ養殖は、成長、身入りとも良好で、順調に生産。
- ・水産資源の維持に向け、クルマエビ118万尾、ヨシエビ265万尾、ガザミ187万尾の種苗放流を実施。また、卵を持ったガザミの雌を保護するため、甲羅に「トルナ」と書いて、海に戻す取組を継続。

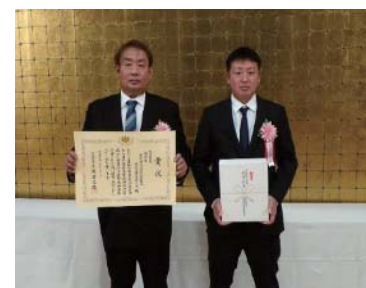


漁獲好調だったサワラ

トピック

○ 豊前海北部漁協恒見支所青壮年部が農林水産祭で内閣総理大臣賞を受賞

- ・令和4年11月23日に東京都で令和4年度農林水産祭式典が開催され、豊前海北部漁協恒見支所青壮年部（代表江口一弘氏）が内閣総理大臣賞を受賞。
- ・内閣総理大臣賞の受賞は、県内漁業者で初の快挙。
- ・当グループでは、近年深刻化しているクロダイの食害からカキ種を守るため、県水産海洋技術センター豊前海研究所と連携し、養殖筏^{いかだ}からカキ種を吊すロープを束ねることで、食害を大幅に軽減させる「束ね垂下」を開発し、導入。
- ・「束ね垂下」により筏1台あたりの生産量が約1.5倍に向上し、経営が安定。
- ・こうした「豊前海一粒かき」の安定生産に向けた取組が評価され、今回の受賞に繋がったもの。



内閣総理大臣賞を受賞した
豊前海北部漁協恒見支所青壮年部（左：江口氏、右：清水氏）

(4) 内水面

(アユの漁獲は平年並み)

- ・令和4年度のアユの漁獲は概ね平年並み。
- ・アユは、内水面漁連で生産した種苗を県内8河川に31万尾放流。また、筑後川、矢部川ではアユの産卵場をそれぞれ2か所ずつ造成。
- ・エツは、下筑後川漁協で生産した種苗を筑後川に27万尾放流。
- ・コイヘルペスウイルス病（KHV）は、養殖場や新たな天然水域での発生なし。
- ・錦鯉は、県が防疫対策等の指導を行い、イギリス、ベトナム、タイなど13か国に輸出。



アユの種苗放流



エツさし網漁

(5) 福岡県水産業の主要指標

項目	区分	単位	県合計	海面漁業			内水面	全 国 ランク	備 考	
				計	筑前海	有明海				豊前海
経営体数	経営体		2,434	2,386	1,226 ^{*1}	794	366	48	12	平成30年値 (2018年漁業センサス) *1:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
就業者数	人		—	4,376	1,917 ^{*2}	1,880	579	—	12	平成30年値 (2018年漁業センサス)
	うち男性	人	—	3,633	1,811	1,403	419	—	12	*2:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
	うち女性	人	—	743	106	477	160	—	8	
水域面積	km ²		—	—	約7,000	171	930	河川 延長 2,205km	—	水域面積 (筑前海) ・隣接県との主要な陸地 間、島間の中間線を結 ぶ線に囲まれた本県漁 船が操業する水域の面 積
海岸線の長さ	km		—	—	420	47	109	人工湖 31か所	—	(有明海・豊前海) ・共同漁業権漁場の面積 (内水面)
最大水深	m		—	—	120	15	15	溜池 4,777か所	—	・県土整備部河川管理課 資料 ・農林水産部農村森林整 備課資料
共同漁業権 免許件数	件		77	64	52	6	6	13	—	令和5年3月31日現在 (漁業管理課調べ、水産 振興課調べ)
区画漁業権 免許件数	件		175	153	54	63	36	22	—	
漁船数	隻		4,943	4,785	2,037 ^{*3}	2,199	549	158	—	令和4年12月31日現在 (漁業管理課調べ) *3:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
漁協数	漁協		43	34	7	19	8	9 ^{*4}	—	令和5年3月31日現在 (漁業管理課調べ)
漁生業 産量	協 員数	人	4,882	3,965	1,696	1,610	659	917	—	*4:内水面には業種別 組合の福岡県養鰯を 含む
	業 量	t	62,981	62,700	62,700			281	19	令和4年値 (農林水産省「漁業・養 殖業生産統計(概数)」、 漁業管理課調べ、水産振 興課調べ)
	漁船漁業 生産量	t	21,668	21,600	21,600			68	24	
	養殖業 生産量	t	41,313	41,100	41,100			213	10	
漁産出 業額	業 額	百万円	28,651	28,326	9,091	16,944	2,291	325	15	令和3年値 (農林水産省「漁業産出 額」、漁業管理課調べ、 水産振興課調べ)
	漁船漁業 産出額	百万円	11,052	10,923	8,489	1,068	1,366	129	21	
	養殖業 産出額	百万円	17,599	17,403	602	15,876	925	196	10	

注1：全国ランクは海面漁業の数値で比較。

注2：原則として単位未満で四捨五入しているため合計と内数の計は必ずしも一致しない。

(6) 福岡県水産業の全国的地位

項目	区分	単位	全国シェア 全国計	主産県				
				1	2	3	4	5
マダイ		t	9.4% 16,138	兵庫 2,245	長崎 1,993	福岡 1,519	愛媛 1,358	山口 731
イサキ		t	8.4% 3,248	長崎 1,032	島根 289	福岡 273	山口 250	愛媛 173
チダイ		t	13.6% 2,002	宮城 351	長崎 346	福岡 272	新潟 101	鹿児島 87
キダイ		t	4.1% 3,650	長崎 1,668	島根 634	山口 455	福岡 149	福井 126
クロダイ		t	6.8% 2,147	兵庫 351	愛知 220	大阪 155	広島 152	福岡 147
アマダイ類		t	7.5% 1,233	山口 301	長崎 205	島根 116	秋田 111	福岡 93
コノシロ		t	5.0% 3,698	千葉 1,502	大阪 693	熊本 465	福岡 186	神奈川 184
サワラ類		t	5.5% 14,337	福井 1,744	京都 1,624	石川 1,231	島根 814	福岡 792
アナゴ類		t	7.8% 2,515	長崎 511	島根 460	宮城 199	福岡 195	茨城 191
ガザミ類		t	10.3% 1,793	愛知 532	宮城 357	福岡 184	長崎 131	熊本 89
アワビ類		t	5.7% 707	岩手 138	北海道 74	宮城 74	千葉 69	福岡 40
クルマエビ		t	8.0% 213	愛知 67	愛媛 52	福岡 17	大分 17	長崎 15
ナマコ類		t	4.2% 5,564	北海道 2,143	青森 642	山口 500	福岡 234	大分 212
ノリ養殖	生産枚数 (百万枚)		13.1% 4,843	兵庫 1,282	佐賀 908	熊本 727	福岡 636	宮城 338
	産出額 (億円)		12.6% 835	兵庫 222	佐賀 168	熊本 133	福岡 105	宮城 55

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」、漁業管理課調べ、水産振興課調べ

注1：ノリは令和4年養殖年（令和4年10月～5年4月）を、その他は令和3年の数値を表示。

注2：アワビ類の2位3位は同率2位、クルマエビの3位4位は同率3位。